

安否確認だけはしよう

安否(生存)確認の必要性

虐待対応は学校だけでは無理で、市町村、児相、警察など関係諸機関と連携しながら、進めなければいけない。教師は忙しさもあって、いろいろな事例に対し、一人で完璧な支援は出来ない。しかし、最低、学校の教師がすべきことは何だろう。

それは、**安否確認**だ。

虐待の有無に関わらず、児童の不在に気づけるのは、親の次に学校の教師(保育所の保育士)。中でも学級担任、保育クラス担任。

気づいたら、そこで止めない！

学級担任なら、生徒指導主任や管理職に報告する。(取りあえず、どんなに忙しくてもここまではすぐにする。)学級担任しかできない。そこだけはやろう。後は、チームの力で。

本人の姿を直接確認して、安否確認したことになる。

これは、虐待だけに関わらず、不登校、事故、誘拐、災害時などにも共通する。

次のようなことは、よく起きる。

(例1) 夏休みの登校時に、連絡なしに欠席する児童がいた。

↓

「旅行にでも行っているんだろう」

(例2) 放課後、親から「まだ帰っていません」という連絡が来た。

↓

「多分、友だちの家でゲームでもしているんだろう」

「前もそんなことあったから」「そのうち帰るだろう」

(例3) 親から、「実家に1週間行っていますので、お休みします」。

↓

「そうですか」(1週間も学校に来ないのは問題だが、実家に行っているんだな)

これらの判断には「正常性バイアス」(自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性)がかかっている。

実際ほとんどの場合、それで問題は起きない。

Aさんは、想像通り夏休みに家族旅行に行っていて、保護者が連絡を忘れていた。

Bさんは、やっぱり友だちの家でゲームに熱中していて時間を忘れていた。電話の10分後何もなかったかのように「ただいま」と帰ってきた。

Cさんは、帰省時、おばあちゃんの家から帰るのがいやだと言って残った。親の意識も低く、まあいいかで1週間休ませた。

そのようなことがほとんどなので、「**正常性バイアス**」は強化される。

しかし、万に一つ、次のようなことが起きているかも知れない。(架空事例)

Aさんは、登校日だから登校中、部団の集合場所に行くまでに車にひかれて側溝に落ちた。車はそのまま逃走。Aさんは深い側溝の中で気を失った。部団長の子も担任も夏休み中だからAさんは休みだろうと判断した。親が異変に気づいたのは、仕事から帰ってから。

Bさんは、帰宅後、ゲーム機を持って家を出たところで誘拐された。親が学校に問い合わせ電話したのはその2時間後。いくらなんでも遅いと学校が動き出したのが、さらに1時間後。警察に届けたのがその1時間後。

Cさんは、虐待の傷が目立つので、治るまで自宅から出ることを禁じられ、その間も食事を与えられず、暴力を受け続け、亡くなった。